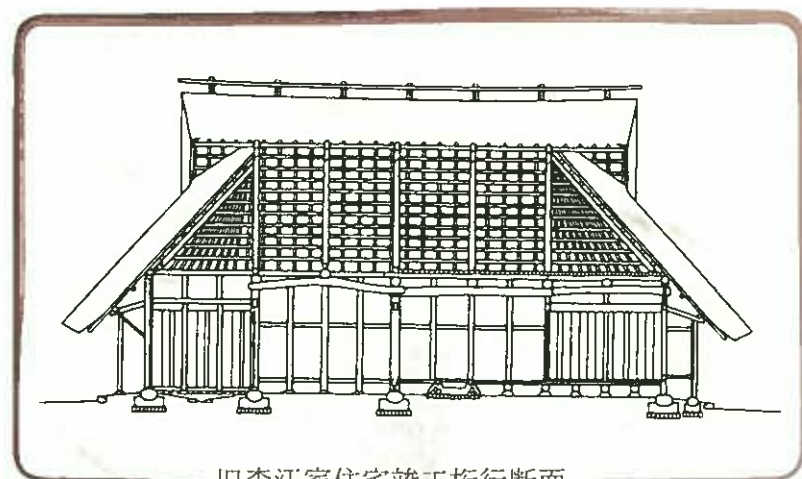


国指定重要文化財

旧森江家住宅のある富村は、苫田郡の西端に位置しており中国山地に抱かれた自然豊かな村で、奥津町、鏡野町、久世町、湯原町、中和村に隣接しています。

全面積の90%以上が山野で、主な産業は農林業です。古くから豊富な砂鉄の資源地として著名であり、その採鉄は近世まで続けられていました。その採鉄跡並びに製鉄用の「タタラ」遺跡も数多く残っています。また、お田植祭（岡山県指定重要無形民俗文化財）で有名な由緒ある布施神社もあります。

旧森江家住宅は、岡山県を代表する古い民家で、国の重要文化財に指定され、一般に公開しています。



旧森江家住宅竣工桁行断面



約300年前の農家

この家は富村大字大に所在していたものを、現在地に移築したもので、全体の間取りや造りからみて建てた時代は江戸中期、およそ300年前の民家です。

この家に伝わる先祖の位碑は宝永2年（1705）から代々残っており、また所蔵の「田畠名寄帳」ならびに「年貢納帳」により、宝永3年以降の系譜は明確で、大変古い民家です。

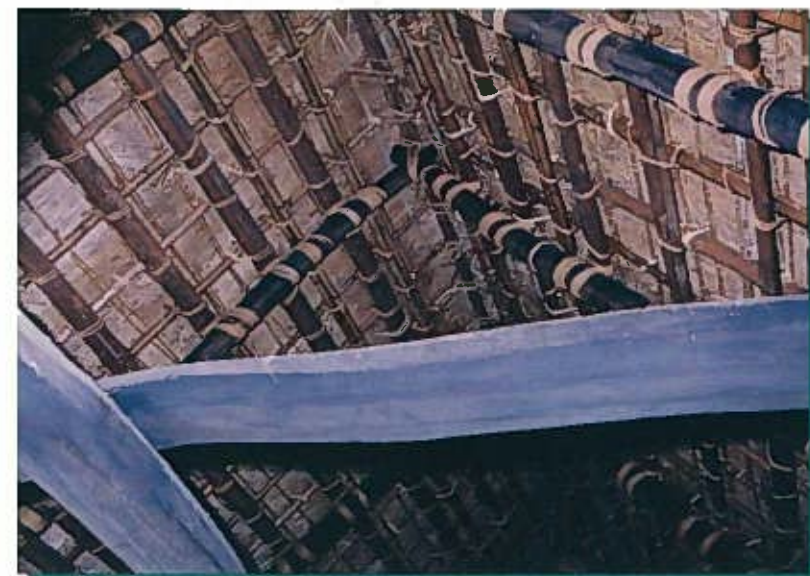
この家は桁行7間、梁間3間の三間取り広間型で山村の農家では中型のものです。この型式は岡山県下の代表的民家であり、建築年代は古く当初の形がよく保存されています。



三間取り広間型

現在知られている古い民家は、16世紀末から17世紀前半に建てられたものが多く、長方形の平面をもつ直屋型式農家がほとんどです。

この住宅は「にわ」（土間）が全体の半分を占め、床上部は半分を「いたば」の一室とし、後方に居間を二室をならべるいわゆる三間取り広間型です。「にわ」と「いたば」を広くとってあるのは農作業や副業としての糞仕事等をしやすいためのものです。また、出入り口の左手の「まや」は南に面した良い場所で、農作業の労働力である家畜を大切にしていたことが分かります。

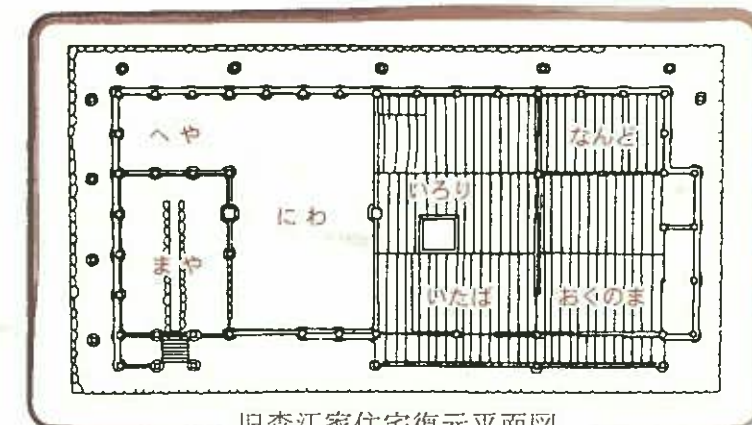


構造と間取り

構造は梁間が狭いせいか、上屋・下屋の区別はなく梁行の大梁は一通りだけかかり、太い柱が用いられていますが単純明解な造りです。大黒柱や側柱なども全部栗材の手斧仕上げとなっており、小屋構造は扱首組となった合理的な組み方です。

平面図で見ると出入り口は南側にあり、大戸構えにし、中央部を「にわ」（土間）とし、左手は「まや」で板壁で囲み、南側の東半分は板戸片開き、内側は板の落とし込みになっています。

「まや」の北側は「にわ」つづきで「へや」を設けています。床上部は「いたば」を広く取り、中央に「いろり」を備えて平素の生活の場所として使われます。東端の間は北側に一間半に一間の「なんど」と、南側は一間半に二間の「おくのま」を取ってあります。「なんど」は寝室、「おくのま」は客室で、この地方の典型的な農家です。



旧森江家住宅復元平面図

※この資料中の「富村」「奥津町」「鏡野町」は、平成17年3月に合併し、「鏡野町」となっています。また、「久世町」「湯原町」「中和村」は「真庭市」となっています。